

令和6年度 田幸小学校教育推進計画

1 研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育む算数科授業の創造
～児童が主体的に学ぶ複式・少人数学級の授業づくり～

2 主題設定の理由

学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つに整理されている。社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中で、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要性が、中央教育審議会答申、「『令和の日本型教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の中でも提起されている。

本校は、複式学級への移行が進みつつある中で、昨年度は児童が自分の考えを持ち協働的に学ぶ「複式型授業づくり」、算数科の見方・考え方を生かした適用題づくりとその活用を通して、児童の思考力・判断力・表現力を育成する研究を進めてきた。さらに、学習リーダーの手引きの活用と改善により、学習リーダーの育成、児童が自分たちで学習を進める力をつけ、主体的な学び合いによって思考力・判断力・表現力を育成し、学力を伸ばすよう、授業改善を行ってきた。ただ、学習リーダーを中心とした学習の流れは定着しつつあるものの、深い学びについては課題が多い。

その結果、三次市学力到達度検査において、3・4年では全国平均を上回っているが、5・6年で全国平均を下回る結果となった。

| | 令和4年度 | | 令和5年度 | |
|----|-------|-------------|-------|------------|
| | 田幸小 | 全国平均(差) | 田幸小 | 全国平均(差) |
| 1年 | 75.7 | 67.9(7.8) | | |
| 2年 | 75.5 | 52.2(23.3) | | |
| 3年 | 78.1 | 59.2(18.9) | 79.0 | 69.9(9.1) |
| 4年 | 48.2 | 56.6(-8.4) | 74.2 | 64.8(9.4) |
| 5年 | 55.6 | 50.1(5.5) | 56.2 | 58.3(-2.1) |
| 6年 | 48.8 | 60.1(-11.3) | 64.1 | 73.8(-9.8) |

三次市学力到達度 算数科

| 令和5年度の評価項目と達成度 | 7月 | 12月 | 差 |
|--|-------|------|-------|
| 児童アンケート「授業では自分の意見を進んで発表しています。」の項目において、肯定的評価80%以上 | 104.1 | 94.1 | -10.0 |
| 算数科の単元末テストにおける平均点が70点以上、または前回より伸びている児童の増加を目指す。 | 92.1 | 88.9 | -3.2 |
| 児童の理解度に応じて作成した問題ごとの正答率平均90%以上 | 79.3 | | |

児童アンケートの肯定的評価は10%低下。理由として、2学期に入り学習内容が難しくなり、自分の考えを持つことが難しかったり自分の考えに自信が持てなかったりしたことが考えられる。「分からない」と言える雰囲気づくり、「どこまで分かっているのか、どこで困っているのか」を伝える児童間や教師との関係づくりを大切にしていこう。さらに、普段の朝

会時や行事の際、積極的に自分の意見を伝える児童は少ないので、日常的に物事に対して自分事として関わる態度を養っていく必要がある。

算数科の達成度は6.5%低下。理由として、文章を正しく読み取って、問題場面をイメージできないため立式に至れないと考えられる。そのため、いろいろな問題場面を設定して適用題を作ることを続けることで、文章から問題場面のイメージを広げられるようにする。視覚的支援など、支援が必要な児童にとって個別最適な手立てを検討していく必要もある。

また、児童の理解度に応じて作成した適用題の正答率平均は79.3%であった。児童の身近にある生活場面や関心の高い分野と関連付けて問題を設定したため、児童の関心を高め主体的な学びにつなげることができた。しかし、具体物を用意する等、問題をイメージさせる手立ての工夫や、ファシリテーターとしての教師の役割について課題が見られた。そこで、本年度は昨年度までの複式型授業づくり・適用題づくりとその活用を継続しつつ、教師のファシリテートと児童の学ぶ姿について検討を行うことで算数の見方・考え方を育み、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

3 研究仮説と研究の柱

(1) 研究仮説

| |
|--|
| 全学級で複式型の授業づくりに向けた教師のファシリテーターとしての役割を検討し実践すること及び算数科の見方・考え方を生かした適用題づくりとその活用を行えば、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすことができる。 |
|--|

(2) 研究の柱

- ア 複式型の授業づくりに向けた教師のファシリテーターとしての役割
- イ 算数科の見方・考え方を生かした適用題づくりとその活用

4 研究の内容

(ア) 複式型の授業づくり

(1) 学習リーダーの育成と教師のファシリテート力向上

児童が自分たちの力で学習をすすめていくため全児童が学習リーダーとなるよう指導する。児童の対話的で主体的な学習をファシリテートするよう努める。また、教員は個別最適な学びとなるよう個別の指導支援を充実させる。そのためには、教員が一人ひとりの児童の学習状況を丁寧に把握し、どの児童も単元におけるねらいを達成することができるように視覚的支援の手立てを考えて、ICTを効果的に活用した授業を展開する必要がある。そして、個々の主体的に学ぶ力を伸ばし、自律的な学びに繋ぐことが目的である。

(2) 学び合う授業づくり

各学年の発達段階に応じて、めざす授業の姿を示したもの(学習リーダーの手引き)を児童と教師で共有する。それをもとに、学習リーダーが授業を進行し、全児童で授業を展開する中で、自分たちで児童が振り返りをしたり、教員がフィードバックしたりして、学び合う授業づくりを目指す。

(イ) 算数の見方・考え方を育む適用題づくりとその活用

(1) 児童の理解度に応じた問題選択および適時適切な実施

既習事項をうまく活用したり、見方・考え方を働かせたりするためには、適切な問題提示が欠かせない。教師は、児童がこれまでの学びを活用して解けるような適用題を作成し、本時の学習目標が達成できるよう、見方・考え方を働かせて問題を解く経験を積ませることで学びを深める。

5 検証方法について

(1) 結果の検証方法

| | |
|------------------------|---|
| (ア) 学習アンケート | ・学期末にアンケートを実施し、「学習リーダーになったとき、本時の学習の流れを意識して学習を深めることができますか。」「学習リーダーと協力して学び合う学習ができていますか。」に対する肯定的評価の割合90%以上 |
| (イ) 職員アンケート | ・学期末にアンケートを実施し、「個別最適・協働的な学びの実現のために、ファシリテーターとして児童に寄り添う授業を仕組んでいますか。」に対する肯定的評価75%以上 |
| (ウ) 単元末テスト | ・算数科の単元末テストにおける平均点が70点以上、または前回より伸びている児童の増加を目指す |
| (エ) 算数の見方・考え方を育む適用題の検証 | ・児童の理解度に応じて作成した問題ごとに、「おむね満足できる」状況の児童の割合80%以上 |

6 研修計画（主な研修）

| 月 | 研 修 内 容 | 備 考 |
|----|---|-----|
| 4 | 児童理解（ポプラっ子を語る会） 就任式・始業式・入学式について 研究推進計画・方向性の確認（学習リーダーについて） 学級目標・学級経営案の交流 不祥事防止研修 スポーツフェスティバルについて 塩町中学校区合同研修会 | |
| 5 | あゆみ・要録・評価方法について ファシリテーターについて 算数科掲示物（ふり返りの視点・自主学習の取組方・発表話型等） 不祥事防止研修 | |
| 6 | 研究授業（複式授業：3・4年生） 児童理解（児童の学校生活アンケートをもとにして） 不祥事防止研修 | |
| 7 | 授業研究（全学年の複式型の授業づくりについての現状と課題の把握） 学級経営案の交流および児童理解（ポプラっ子を語る会） 各部の反省と計画（1学期研究のまとめ、2学期以降の取組み方等） 不祥事防止研修 | |
| 8 | 授業研究（2学期以降の教材研究、適用題づくり、学習リーダーの手引きの見直し、ファシリテーターについて） 不祥事防止研修 ポプラっ子発表会について | |
| 9 | 不祥事防止研修 研究授業（複式授業：5・6年生）9/30（月）教育センター研修講座（会場） | |
| 10 | 授業研究（全学年で問題づくり） 研究授業（単式授業：1年生） 児童理解（児童の学校生活アンケートをもとにして） 不祥事防止研修 | |
| 11 | 授業研究（全学年で問題づくり） 研究授業（単式授業：2年生 複式授業に向けて） あゆみについて 不祥事防止研修 | |
| 12 | 各部の反省と計画（2学期研究のまとめ、3学期以降の取組み方等、学習リーダーの手引きの見直し） 学級経営案の交流および児童理解（ポプラっ子を語る会） 不祥事防止 | |
| 1 | 道徳参観日に向けての授業事前交流（全学級） 三次市学力到達度検査を受けて 全体計画・領域計画・シラバスの作成について 不祥事防止研修 あゆみ・要録について | |
| 2 | 各部の反省（今年度のまとめ、来年度に向けて） 卒業証書授与式・修了式について 生活・総合的な学習の時間の見直し 不祥事防止研修 | |
| 3 | 今年度のまとめ、来年度に向けて 学級経営案の交流および児童理解（ポプラっ子を語る会） 不祥事防止研修 | |

※毎月1回不祥事防止研修を行う。

別紙①

田幸小学校の複式授業づくり

令和6年2月改定

《ねらい》

- 自律的学習姿勢を身に付けさせる。
- 児童に授業の流れを委ねることで、指導者は個に応じたきめ細やかな指導を行い、基礎基本の定着を図る。
- 異学年構成を生かし、学年を超えて学び合う態度を育てる。

1 目指す児童の姿

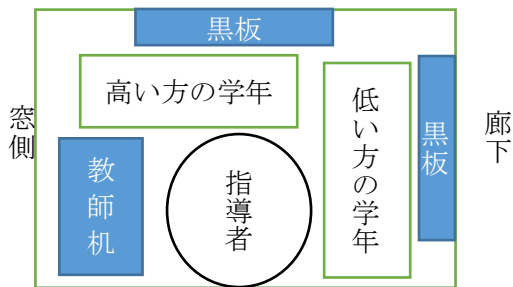
| | 学習リーダー | 生活の中で |
|-----|---|--|
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none">・学習進行表を見て、大まかな学習内容がわかる。・簡単な進行ができる。・公平に指名することができる。・簡単な問題とその答え合わせができる。 | <ul style="list-style-type: none">・指名されたら、返事をして、語尾まではっきりと話することができる。・iPadの活用・話す人の方を見て、終わりまで聞くことができる。・わからないことは質問し、わかるまで聞く。 |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none">・学習進行表を見ながら、学習を進めることができる。・公平に指名しながら、意見をまとめようとすることができる。 | <ul style="list-style-type: none">・前の人の意見の相違点を考え、つながり発言をすることができる。・iPadの有効活用で意見の共有を行う。・リーダーの進行をもとに、質問や意見を言いながら話し合いをすることができる。 |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none">・進行表を見て、学習の流れがわかる。・時間内に本時の学習が終えられる。・公平に指名し、意見を引き出したり、まとめたりすることができる。 | <ul style="list-style-type: none">・多様な意見を受け入れ、共通点・差異点を見つけて整理することができる。・iPadの有効活用で意見の共有をスムーズに行う。・教員がついていない時にも、自分たちで目的に沿った学習や話し合いを行うことができる。 |

2 学習の流れ 算数学習リーダーの手引き参照

※定期的に児童と共に見直し改善を図る。

3 学習環境

① 机配置と指導者の位置



② 学びの支援となる既習事項の掲示

③ 学習に使うものの準備(全学級統一) ホワイトボード ペン マジック 指示棒 タイマー等

- ・ 各種用紙(ノート罫・作文用紙など)
- ・ コンパス・ものさし・三角定規・分度器・消しゴム・赤鉛筆など

(忘れた人貸し出し用, 「田幸小」と大きく書く)

4 単式(1,2年生)のうちに身につけておくこと

① 学習は自分でするものであることのマインドセット (自分の頭で考え伝えあうこと)

分からないときは

- ➡ 「教科書をしっかり読んでみる」
- ➡ 「今までのノートを見返す」
- ➡ 「わからないと言う。」
- ➡ 「友だちにとき方や考え方を教えてもらう。(答えを教えてもらうのではない!)」

② 学習準備 (机上の準備・整理整頓)

鉛筆 赤・青鉛筆 消しゴム 定規 (筆箱は出さない) ←拡大天板の前側統一

③ ノートの取り方の基本

④ 発表の仕方・聞き方

⑤ 子連れ参観(カルガモ参観)による複式学習のイメージの獲得(1学期1回, 2学期2回)

参観後に感想を書き参観学年にフィードバックし, お互いに刺激のあるものにする。

⑥ 学習リーダーによる複式型授業(1年生2学期より)

⑦ 次年度複式学級になる学年に対してプレ複式授業の実施(3学期)

(単式)

4 本時の学習

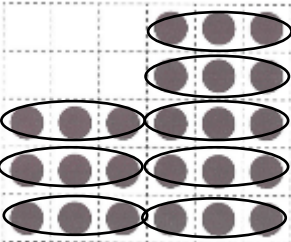
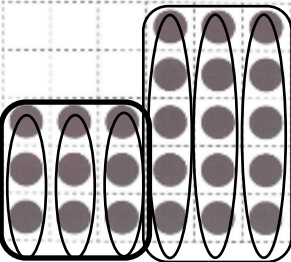
(1) 本時の目標 (15/17時間)

乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、説明することができる。

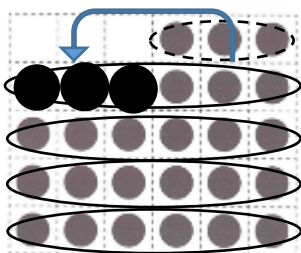
(2) 本時の評価基準

ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。

(3) 本時の学習展開

| 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 | 評価規準 (方法) |
|--|--|-----------|
| <p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 問題場面をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。</p> </div> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>計算でチョコレートの数を求めよう。</p> </div> <p>4 見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数えたらできる。 ・かけ算を使う。 ・まとまりを見つけたらできる。 ・まとまりを○で囲むと分かりやすい。 <p>5 自力解決をする。</p> <p>①同じまとまり</p>  <p style="margin-left: 20px;">式 $3 \times 8 = 24$</p> <p style="margin-left: 100px;">答え 24こ</p> <p>②分けて合体</p>  <p style="margin-left: 20px;">式 $3 \times 3 = 9$ $5 \times 3 = 15$ $9 + 15 = 24$</p> <p style="margin-left: 100px;">答え 24こ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・図と同じチョコレートの箱の模型を用意し、興味を持たせる。 ・問題を提示し、聞かれていることやこれまでの問題とちがうところを考えさせる。 ・数えなくても、かけ算をすれば早く、正確に求めることができそうだという見通しを持たせる。 ・同じ数のまとまりに着目し、そのいくつかで、かけ算を用いることができることに気付かせる。 ・個人思考が難しい児童は、友達の考えを聞きに行ってもよいことを助言する。 ・それぞれの方法に名前をつけて、イメージしやすくする。 | |

③移動

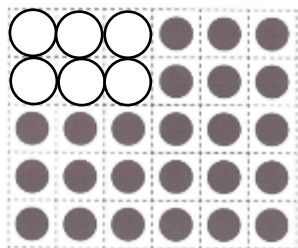


式

$$6 \times 4 = 24$$

答え 24こ

④全体から引く



式

$$5 \times 6 = 30$$

$$3 \times 2 = 6$$

$$30 - 6 = 24$$

答え 24こ

6 ペアやグループで交流する。

- ・図を見せながら自分の考えを伝える。

7 全体で交流する。

- ・考え方が似ているもの同士で分類する。
- ・自分の考えを図と式を結び付けながら説明する。
- ・友だちの考えでいいなと思ったところを話し合う。

8 まとめをする。

同じ数のまとまりを見つけ、かけ算を使ってまとめる。

9 適用問題に取り組む。

- ・自作問題に取り組む。

10 本時の学習の振り返りをする。

- ・友達の説明を聞いたら、質問したり、気付いたことを発表したりするように助言する。
- ・児童から出なかった考えがある場合は、式を提示しどのような考えなのか説明させるようにする。
- ・どの求め方も同じ数のまとまりに着目していることに気付かせる。

- ・友達の考えを聞いて、分かったことや良かったところ、またこれからどんな場面で使えそうか、疑問に思ったことなどをノートに書くようにする。

ものの数の求め方を、かけ算を用いて解決できるように工夫して考え、図などを使って説明している。
(ノート, 観察, 発表)

(複式)

| 3年生 | 4年生 |
|--|---|
| 学習活動と予想される児童の反応(・) *指導上の留意事項☆評価規準(評価方法) | |
| <p>1 前時の想起 *本時につながる筆算を使って解くかけ算の計算の問題、 3つの数のたし算の計算問題と振り返り、本時への見通しをもたせる。</p> <p>2 問題を知る。 1 こ72円のおかしを5こずつ箱に入れます。2箱買うと、代金は何円ですか。説明しましょう。</p> <p>3 めあてをつかむ。 数が3つあるかけ算は、どう考えたらいいかな。</p> <p>4 見通しをもつ。 *思考を進めるための方法を共有させる。(図、かけ算) *説明するための方法を共有させる。(言葉) *乗法で考える見通しをもたせるために場面の絵を提示する。</p> <p>5 自力で考える。 ・ $72 \times (5 \times 2) = 72 \times 10 = 720$ 720円 (説明)先におかしの合計をもとめ、おかしの代金をもとめました。 ・ $72 \times 5 \times 2 = 360 \times 2 = 720$ 720円 (説明)ひと箱分のねだんをもとめ、おかしの代金をもとめました。</p> <p>6 集団で考える。 *共通点を問うことで、計算の順序が分かっても答えが変わらないことに気づかせる。結合法則についてまとめる。 *相違点を問うことで、結合法則を使って、10をかけるかけ算の式をつくと簡単なことに気づかせる。</p> <p>7 まとめをする。 数が3つあるかけ算は、かける順番を入れかえて計算したらかんたん。</p> <p>☆乗法の結合法則を用いて、工夫して計算し、説明している。【思・判・表】(ノート、観察)</p> <p>8 適用問題をやる。 3年生へのおみやげに1こ125円のアイスを買います。4こ入りの箱を2箱買うと、代金は何円ですか。工夫して計算し、わけも説明しましょう。</p> <p>☆乗法の結合法則を用いて、工夫して計算し、説明している。【思・判・表】(ノート)</p> <p>9 振り返りをする。 ふりかえりの視点 ○わかったこと ○今後に生かせること</p> | <p>1 問題を知る。 たこちゃんともるちゃんはノート(190円)、はさみ(340円)、筆箱(480円)を買いに行きます。 3つのものを買うには、何円あれば足りるかを考えています。百の位までのがい数にして見積もってお金を用意します。たこちゃんは1000円、まるちゃんは1100円用意しました。 どちらに賛成ですか。お金が足りるように見積もるときはど</p> <p>2 めあてをつかむ。 お金が足りるように見積もるときはどう考えたらよいか。</p> <p>3 見通しをもつ。 *思考を進めるための方法を共有させる。(切り捨て、切り上げ、四捨五入、金額の見積もりのがい算=たし算) *説明するための方法を共有させる。(比べる、言葉)</p> <p>4 自力で考える。 ・ たこちゃん 四捨五入で考えた。 ノート 190円→200円、はさみ 340円→300円 筆箱 480円→500円 $200+300+500=1000$ 1000円 ・ まるちゃん 切り上げで考えた。 ノート 190円→200円、はさみ 340円→400円 筆箱 480円→500円 $200+400+500=1100$ 1100円 *思考が止まっている場合、どういう方法で考えているかを問い、見通しを立たせる。</p> <p>5 集団で考える。 ・ たこちゃんの1000円では、実際に計算したら足りない。 *足りるかどうかを毎回細かく計算する大変さを切り返し、がい算のよさに気づかせる。 ・ 切り上げて多めに見積もると、足りなくなることはない。 *相違点を問い、なぜ賛成したのかを話し合い、たりるかどうかを見積もるためには、切り上げて多めに考えることを押さえる。</p> <p>☆ 概数を用いて、目的に応じ、和や差の見積もりの仕方を説明している。【思・判・表】</p> <p>6 まとめをする。 お金が足りるように見積もるときには、切り上げて多めに見積もったらよい。</p> |

7 適用問題をやる。

ジャイアンとスネ夫はジュース(280 円),プリン(490 円),弁当(640 円)を買いに行きます。
3つのものを買うには、何円あれば足りるかを考えています。
百の位までのがい数にして見積もってできるだけおつりが出ないようにお金を用意します。
ジャイアンは 1200 円, スネ夫は 1500 円用意しました。
どちらに賛成ですか。お金が足りるように見積もるときはどう考えたらよいかを説明しましょう。

☆ 概数を用いて、目的に応じ、和や差の見積もりの仕方を説明している。【思・判・表】

8 振り返りをやる。

ふりかえりの視点

- わかったこと
- 今後に生かせること